

UWC ISAK JAPAN

一年間のご報告

ANNUAL REPORT
2024-2025



ご挨拶



校長　アーデン・チョシン

この 1 年、ユナイテッド・ワールド・カレッジ ISAK ジャパン（UWC ISAK）では、学びが教室を超え広がりがあることをあらためて実感する機会が多くありました。学びとは、好奇心と意志をもって成長のチャンスを見出していく姿勢そのものです。
今年、私たちは学校のモットーをビジョンへと進化させました。
One life. Realize your potential. Be a catalyst for positive change.
この言葉は、私たちの日々の基本指針であり、コミュニティの原動力となっています。
生徒たちはこのビジョンに対し、常にさまざまなかたちで取り組んでくれました。メンタルウェルネスのワークショップ、サステナビリティに関する取り組み、医療格差と医療アクセスに関するフィールドワークなど、それらの活動は力強く、意欲的にリーダーシップを体現するものでした。こうした活動は、単なる学校のプロジェクトではありません。混迷する世界において、今まさに求められている「思いやり」「自主性」「変化を起こしたいという強い意志」の表れです。生徒たちは、実践的な課題解決の能力を培いながら、献身的にビジョンを体現するために努力し、失敗から学び、困難を乗り越える力を養っています。
生徒、保護者の皆さま、卒業生、教職員、そして理事、評議員、ファウンダーをはじめとするご支援者の皆さまに深く御礼申し上げます。皆さまの厚いご信頼と温かいご支援のおかげで、私たちは「世界が必要とするリーダー」を育むことができます。引き続き挑戦する私たちの進化にもぜひご注目ください。
混乱の続く世界の中でも、希望はあります。その希望は、生徒たちの行動に、声に、ビジョンの中に息づいています。



代表理事　小林 りん

世界情勢は混迷を極めており、分断は深まるばかりです。「多様な価値観を理解する」と言葉にするのは簡単ですが、実現する難しさを痛切に感じる日々です。
11 年目となる今年度も、多くの皆さまのおかげで引き続き 7 割の生徒に奨学金を給付し、広く深い多様性に満ちた学び舎を実現できました。ご信頼とご支援に心より御礼を申し上げます。
こんな時代にこそ、信念をもって行動できる若者の育成が急務である、そんな思いから今年、Alumni Action Fund（AAF）を創設しました。AAF は、卒業生が「一歩」を踏み出す時に、出資という形で応援することを目的としています。1 号案件は、卒業生が起業した AI を使って日本の製造業の DX を推進するスタートアップに決まりました。
5 月に行われた卒業式での、答辞が印象的でした。「世界中で起こる紛争と頻発する自然災害の数々。未来は果たして希望に満ちているのだろうかと自信がもてなくなる自分がいました。
でも、UWC ISAK で学びました。私達は発言し、行動しなくてはならない。対話を通じて。意見が違っても、或いは意見が違うからこそ、対話をしなくてはならない。相手の立場を理解しようと努めることが、相手を本当に慮っていることの何よりの証だから。」
私たちの世代では成し遂げられなかったことを、彼らであれば実現してくれるかも知れない。未来への確かなる希望を胸に、また新たな 1 年の幕開けに向けて、使命感とともに一歩を踏み出していきたいと思います。
この営みを可能にしてくださっている大勢のご支援者の皆さま、現場で日々さまざまな困難を共に乗り越えながら運営にあたってくれている教職員、そして理事・評議員・監事の皆さまに、重ねて心より御礼を申し上げます。



発起人代表　谷家 衛

創立 10 周年記念式典は、UWC ISAK が「生徒たちと仲間たちが共に作り上げてきた学校」であり、今後もそうあり続けるという確信を、私たちの中に深く刻む時間となりました。
生徒一人ひとりが、「自ら考え、行動し、変化を生み出す」ことで、学校を形づくってきました。この精神こそが UWC ISAK の原動力であり、私たちが未来に抱く希望です。
モットーからビジョンへと進化したことにより、UWC ISAK の核となる価値観もより明確になりました。「One Life」――自分の人生を最大限に生きると同時に、他者や自然とのつながりを大切にするという考え方は、「自分の人生は、自分で作っていくもの」という力強いメッセージを伝えています。
このビジョンを胸に、UWC ISAK の生徒たちはこれからも、分断や気候変動といった世界的な課題に正面から向き合い、国や文化の違いを越えてつながりながら、より良い未来をつくっていくと、心から信じています。

数字で見る当校、ミッション・ビジョン

数字で見る当校

2024–2025年度

生徒数	199名
生徒の国籍数	89カ国
奨学金給付率	71.8%
教職員数	67名



ミッション・ビジョン

今年、UWC ISAKの目的と文化をより的確に表すために、私たちは学校の核となる基本指針の見直しを始めました。
最も大きな変化は、これまで モットーとして掲げてきた言葉を、新たにビジョンとしたことです。

Our Vision

One Life.
Realise your potential.
Be a catalyst for positive change.

UWC Mission

UWC makes education a force to unite people,
nations and cultures for peace and a sustainable future.

このミッション・ビジョンを支えているのが、UWC ISAKのリーダーシップの考え方です。
これは、私たちが共に考え、行動し、成長していく上での基盤となっています。

- 大切なことを見極める
- 困難な状況においても行動を起こす
- 多様性を力に変える
- 仲間とともに実践する

一年間のふりかえり



2024.8　創立10周年記念イベント

2024年の夏、UWC ISAKは創立から10周年を迎えました。生徒、卒業生、保護者、ご支援者の皆さまが軽井沢のキャンパスに集い、これまでの歩みをふり返り、次の10年に向けての決意を新たにする一日となりました。



2024.9　UWCデー ＆ 国際文化教育フェスティバル

9月21日、「Together We Change（ともに変えていく）」をテーマに、UWCデーと国際文化教育フェスティバルを合同で開催しました。150名以上の地域の方々をはじめとする来場者がキャンパスに集まり、ワークショップ、国旗パレード、文化交流ブース、クラシックコンサートなどを通して、UWC ISAKの多様性を祝いました。



2024.10　秋のプロジェクトウィーク

高校1年生は、外部から来た起業家のアドバイスを受けながら、初めてのプロジェクトをスタートさせ、高校2、3年生は過去の取り組みを発展させ、成果を発表しました。すべての学年の生徒が、アイデアを試し、振り返り、行動に移す機会となりました。



2024.11　感謝の夕食会

ICE（International and Cultural Event、国際文化活動）クラブ主催で、毎年恒例の「感謝の夕食会」が開催され、日々生徒を支えている教職員に、感謝の気持ちを伝える温かな行事となりました。生徒主導で開催された、飾らず、心のこもったひとときは、キャンパス全体に流れる「感謝の文化」を象徴するものでした。



2024.12　SNOW選挙

新たな生徒会（SNOW, Seito no Wa）のリーダーとして、Naina（アメリカ/2024年度2年生）とAkil（スリランカ/2024年度2年生）が選ばれました。前会長のNiko（日本・オーストラリア/2024年度3年生）は、次のように語りバトンを渡しました。「SNOWの会長を務めたことは、“理想を追い求める中で、自分自身を見つめ直す旅”でした。」



2025.1　『わが町』上演

演劇クラブが、今期はソーントン・ワイルダー作の『わが町（Our Town）』を上演しました。日常の何気ない瞬間に光を当てる物語は、観る人の心に静かに響きました。本公演は、軽井沢町民も含む多くの観客にご覧いただき、熱心な生徒の尽力が光る舞台となりました。



2025.2　OpenAIチームの来校

OpenAI本社のエンジニアをお迎えし、「AIのこれからと教育との関わり」をテーマに対話の場をもちました。この機会は、生徒・教職員のあいだに率直な議論や新たな問い、アイデアを生み出すきっかけとなりました。
今回の機会を実現してくださった当校の評議員会議長の宮澤弦氏に、心より感謝申し上げます。



2025.3　春のプロジェクトウィーク

高校1年生にとって2回目となるプロジェクトウィークでは、キャンパスを離れて活動するチームも多く見られました。ネパールやマレーシアにて、貧困地域における子供の教育支援、キルギスタン共和国でのSTEM学習環境整備、石垣島での環境保全活動など、多様な取り組みに、生徒たちのリーダーシップが発揮されました。



2025.4　野外教育　小浅間山ハイク

当校では、野外教育を教育課程の重要なプログラムの一つと位置付けています。その一環で、浅間山の東側の麓にある、小浅間山に早朝4時過ぎに登頂を開始し、頂上を目指しました。往復一時間半程度の登山ではありましたが、互いに励まし合い、全員が、仲間と共に笑顔で日の出を迎えることができました。



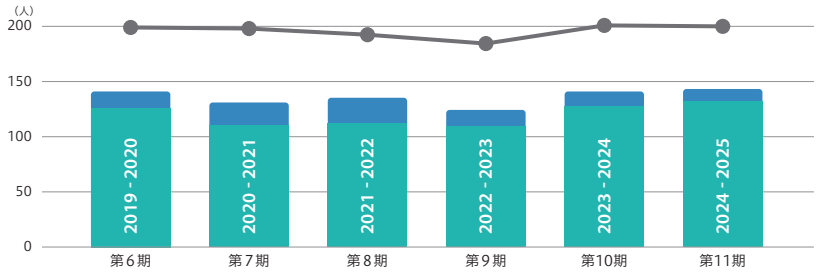
2025.5　卒業式

2025年度の卒業生を祝う式典が行われ、第9期生となる73名の卒業生たちがステージに立ち、それぞれの新たな旅立ちを迎えました。卒業生代表の3名のスピーチからは、一緒に卒業していく仲間への感謝、そして強い絆が感じられました。卒業生とその家族だけでなく、参列した多くの人にとって忘れられない節目の行事となりました。

ご支援者の皆さまへのお礼及びご報告

いつも温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。国籍だけでなく、社会経済的にも多様性あふれる当校のコミュニティは、全体の約7割の生徒に家庭の経済状況に合わせた返済不要の奨学金を給付することで実現しています。皆さまからのふるさと納税をはじめとする継続的なご支援のおかげで、この教育環境を維持しながら、時代に即して教育プログラムを発展し続けることができます。改めて、心より感謝申し上げます。

奨学生の人数推移*



* 奨学生はふるさと納税やその他ご支援により全額または部分奨学金を受けている生徒となります。

2024年会計年度　教育活動収支報告書

項　目	金 額（単位:百万円）
学生生徒等納付金	1,228.55
授業料、寮費、施設設備資金	1,197.63
入学金	27.30
入学検定料	3.62
寄付金	1,587.05
一般寄付金	34.00
特別寄付金	492.29
市町村補助金（個人版ふるさと納税）	446.95
企業版ふるさと納税	13.75
現物寄付	600.05
その他	144.41
地方公共団体補助金	73.37
ショートプログラム	51.29
雑収入	19.76
教育活動収入計	**2,960.01**
人件費支出	621.10
教員人件費支出	346.81
職員人件費・役員報酬支出	258.77
退職金支出	15.52
教育研究経費支出	825.16
奨学費支出	579.38
その他支出	245.78
管理経費支出	217.04
奨学費支出	33.71
その他支出	183.33
減価償却	91.49
教育活動支出計	**1,754.79**
教育活動収支*	**1,205.22**
2024年寄付基金（Endowment Fund）へ充てた金額	599
寄付基金（EF）へ寄贈された株式	599.61
実質的な活動収支	**6.61**

* 今期は10周年記念事業を記念し、多大なるご寄付を賜りました。
中長期にわたり安定した奨学金制度を保持する目的で、寄付基金（EF）に毎年一定額割り当てるよう最大限努めております。









ご支援者の皆さまへのお礼

今日までのUWC　ISAKの歩みは、ひとえにファウンダー並びにカタリスト・サポーターの皆さまからの温かいご支援のおかげです。心より御礼申し上げます。また、ふるさと納税、マンスリーサポータークラブ、本校奨学金、コーポレートサポーター、プロボノによるご支援、物資のご提供など、多岐にわたりご支援くださった個人ならびに法人の皆さまにも、改めて深く感謝申し上げます。

ファウンダー
（ご支援順）

谷家 衛*
小林 繁肇・りん
髙橋 百合子
山本 公哉
柳沢 正和
青井 理香
立石 文雄
林 秀彦・三千代
河野 宏子
居松 秀浩*ǂ
小澤（兼信）ふみ子 ǂ
ネルソン ブライアン
小柴 正浩*
小島 勝
吉野 永之助
加藤 元
井上 高志
田中 将太郎
村田 貴士 *ǂ
高野 真
夏野 剛
水谷 浩明
川田 尚吾
佐藤 輝英
松木 光平
出井 伸之
北城 恪太郎
井上 智治
伊藤 友則
山岸 広太郎
エアン ショー
宮澤 栄一
中島 周
小泉 泰郎

一般財団法人 小川奨学財団
衣畑 秀樹
三宅 伊智朗
本庄 竜介
鈴木 エドワード
菅原 勇一郎
辻本 春弘
堀江 伸 ǂ
髙山 健
佐浦 弘一
公益財団法人 石橋財団
佐護 勝紀 ǂ
岩倉 正和
神山 治貴*
小林 正忠
小林 一俊
マニヤン ジャック・麻里子
加治ファミリー
佐藤 茂*
武田薬品工業株式会社
長谷部 泰三
奥本 真一郎
福武 純子*
本多 均*
小泉 洋二朗・光美
安東 泰志*
有田 浩之
岩崎 俊男・美紀子
武田 洋子
山口 典子
安渕 聖司
木村 新司
蓑田 秀策*
氷室 利夫

一般社団法人 野中インスティテュート・オブ・ナレッジ
株式会社 ホッピーミーナ
岡田記念会
川鍋 一朗
諸藤 周平
三宅 卓*
ユナイテッド・マネージャーズ・ジャパン株式会社
永瀬 昭幸
髙井 洋子
末広 真樹子
藤武 慶三
吉澤 信司
内山 幸樹
分林 保弘
俞 梅
藤武 貴尚
古川 淳
島田 亨*
佐山 展生
柏木 斉
吉田 あや子、佐々木 寛・雅子
施 艺
マクナーニ ポール・真樹
川村 隆
米日財団
藤田 恭嗣
増田 宗昭*
畠山 康・麻紀子
池田 祐久
角川 歴彦
青山 健

＊名誉ファウンダー　ǂゴールドマン・サックス・ギブスを通じてのご支援

カタリスト・サポーター
（ご支援順）

真鍋 康正
永阪 崇行
馬塲 功淳
大下 悟
孫 小蕾
ゴー ユーリン
YKK Holding Asia Pte Ltd.
藤森 義明
浜本（森）淳子
中村 春雄
小杉 明
塩田 元規
小佐野 保
大平 亮
公益社団法人リソー教育岩佐財団
公益財団法人服部国際奨学財団
阿部 亮
菅原 貴弘
渡邊 洋行
志村 晶・三千代※
山本 真一
有馬 友樹・有馬 誠
橋本 幸一郎
株式会社みずほフィナンシャルグループ
林 竜也・真理子
株式会社バイキング
玉川 憲
ゴヴァース 健二・淳
梅田 優祐
杉江 陸
小方 功
金子 英樹
池尻 由貴
井内 英夫・美佐子・郁江※

田中 良和
越智 通勝
株式会社メディアドゥ
渡 伸一郎※
いちごアセットマネジメント株式会社
石井 壮太郎
芳川 可奈子・裕誠
上野山 勝也
西川友也・美弥子
加藤 晴子
里見 治紀
ロナ チャオ
磯貝美穂子・マーク チャン
チュウ ファミリー
河野 雅彦
大塚 紀男
岩上 好博
熊切 雄三
神山 裕子

※名誉カタリスト・サポーター

本校奨学金

井内奨学金
佐藤茂奨学金
末広真樹子奨学金
本庄奨学金
本庄照子奨学金
YKK Holdings Asia奨学金

サマースクール奨学金

HSBCグループ奨学金
キャニオン・キャピタル・ジャパン奨学金

ゲストスピーカーセッション

株式会社エイブル

大学進学奨学金

シェルビー・ディビス奨学金
日本財団奨学金

プロジェクトサポート

いちごアセットマネジメント株式会社
MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社
東京エレクトロン株式会社
株式会社ライジング・フィールド
株式会社ランドウェル
株式会社みずほフィナンシャルグループ

企業版ふるさと納税

株式会社メディアドゥ
株式会社集英社

コーポーレート・サポーター

株式会社 LIXIL グループ
セコム株式会社
株式会社エアウィーヴ　ホールディングス
モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所
伊藤 見富法律事務所
TMI 総合法律事務所
IDEO Tokyo
パナソニック株式会社
マッキンゼー・アンド・カンパニージャパン
ベイン・アンド・カンパニー

（敬称略）

10周年記念事業のお礼





10 周年記念事業ご支援者の皆さま

安東 泰志
居松 秀浩
増田 宗昭
蓑田 秀策
佐藤 茂
志村 晶・三千代
渡 伸一郎
ロナ チャオ
シャーロット ユー・ゴー ユーリン
林 秀彦
堀江 伸
磯貝 美穂子・マーク チャン
神山 治貴
川鍋 一朗
衣畑 秀樹
小林 繁肇・りん
小泉 洋二朗・光美
小柴 正浩
村田 貴士
越智 通勝
大下 悟
佐護 勝紀
高野 真
高山 健
谷家 衛
立石 文雄・有樹子
チュウ ファミリー
辻本 春弘
山岸 広太郎
柳沢正和
安渕 聖司
三宅 卓

ネーミングライツご支援者の皆さま

安東 泰志
居松 秀浩
川田 尚吾
佐藤 茂
志村 晶・三千代
福武 純子
本多 均
増田 宗昭
蓑田 秀策
山岸 広太郎

ご支援
ありがとう
ございます

新校舎竣工のお礼



Taniya Lodge

保健室、メディテーションルーム、ジムなど、生徒の心身のウェルビーイングを大切にするための環境が整っています。ご支援くださった谷家衛氏に心から御礼申し上げます。



Shimada Commons

撮影した場所はTaniya LodgeとKICCを結ぶスペースとなり、日本・長野という土地柄を活かしたコミュニティガーデンが建設される予定です。ご支援くださった島田亨氏に心から御礼申し上げます。



Koshiba Innovation & Creative Center（KICC）

シアタールーム、メーカースペース、自習室など、生徒の創造的な発想を育み、さらに広げていくための設備が揃っています。ご支援くださった小柴正浩氏に心から御礼申し上げます。

卒業生、保護者サポーターの声

Sabuhi（アゼルバイジャン / 2024年卒業生）

UWC ISAKは初めて自分の居場所だと感じた場所で、まるで自分の家のように感じています。恩返しの気持ちを込めて、私と同じようなチャンスを誰かに届けたいと思いました。大学生の私でも、月に数ドルなら無理なく支援できます。これは、UWC ISAKとのつながりを形にし、次の世代を応援する自分なりの方法です。

Dylan（フィリピン / 2017年卒業生）

同窓会組織のメンバーとの会議で、卒業生からの支援を拡大させる取り組みを進めていると知りました。そして、私がUWC ISAKで得た素晴らしい経験への恩返しをする立場になったのだと実感しました。時間はかかりましたが、後輩たちを支援できることを嬉しく思います。

The Chiu Family（アルゼンチン・台湾 / 2019年卒業生のご家族）

UWC ISAKの「ポジティブな変化の触媒となるリーダーを育成する」という建学の精神に、私たち家族は深く共感しています。この理念を実現するためには、多くの世代の若者たちが、より豊かで進歩的な世界を目指し、駅伝のように協力しあいながらタスキを繋ぎ、絶え間ない努力を続ける必要があります。私たちは幸運にも、若者が最高の自分に成長できる学校であるUWC ISAKと出会うことができました。UWC ISAKの歩みをサポートできることを嬉しく思います。

卒業生の今

卒業生の物語

UWC ISAK の卒業生たちは、毎年、「自分の可能性を最大限に発揮し、前向きな変化を生み出す存在とはどういうことか」を、机上の理論ではなく、自らのコミュニティや仕事の現場で、実際の行動を通じて示し続けています。



Viktor（スロバキア / 2018年卒業生）は、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンとフンボルト大学で政治経済学とサイバー法を学び、IT業界でキャリアを築いてきました。ITスタートアップ企業にてグローバルチームを率いる経験を糧に、最近では、グローバルIT企業のSAP Emarsysに転職し、更なるリーダーシップを発揮しています。UWC ISAKでの学びの中でも特に「誰でも受け入れるようなリーダーシップ」は今も心の拠り所となっていて、「UWC ISAKで培った人とのつながりが常に支えとなった。この強い結びつきにとても感謝している。」と語っています。



Ismat（アフガニスタン / 2019年卒業生）は、UWC ISAK在学中に「Education for Everyone（E4E、教育を受ける機会を一人一人に）」を立ち上げ、アフガニスタンで、教育を受ける機会を多くの人へ拡大することに取り組んできました。E4Eはこれまでに、図書館の設立や、タリバンによる女子教育の制限といった困難への対応を続けてきました。Ismatは現在、カナダでビジネスとグローバルマネジメントを学びながら、非営利活動を継続しています。「前向きな変化をもたらす存在となることは、今も自分にとって最も大切な価値観の一つだ。」と話しています。

Alumni Action Fund（AAF、卒業生支援基金）の始動

卒業生支援基金は、UWC ISAKの卒業生が設立するスタートアップ企業を支援する、1億円規模の基金です。学校とは独立して運営され、独自に資金を調達する基金でありながら、「前向きな変化をもたらす存在となる卒業生の可能性を信じる。」という想いを共有する、ファウンダー、カタリスト・サポーターをはじめとするご支援者、当校関係者の方々と、卒業生による協働のかたちとして始動しました。

卒業生支援基金は、資金提供に加えてメンタリングや長期的な活動支援も行い、2030年までに10〜20の卒業生主導の事業を支援することを目指しています。第1号案件として、卒業生のJunpeiが率いるAIを活用したスタートアップ企業へ、すでに投資が進んでいます。



Junpei（日本）は、UWC ISAKと東京大学での学びを土台に、AIを実用的、かつ拡張可能な方法で活用するスタートアップ企業を共同設立し、急成長させています。彼の設立したこの企業は、アジア各地の投資家や事業パートナーからすでに注目を集めており、彼は、「初期段階からの卒業生メンターによるサポートが成長の鍵になった。」と語っています。

卒業生の進学先



UWC ISAKの卒業生コミュニティは、127の国と地域から集まった500名以上のメンバーで構成されており、それぞれが世界中でポジティブな変化を生み出すことを目指しています。

卒業生たちは、イェール大学、プリンストン大学、コーネル大学などのアイビーリーグをはじめ、シンガポール国立大学やロンドン芸術大学といった各分野のトップ大学、そして東京大学、早稲田大学、慶應義塾大学、国際基督教大学(ICU)などの日本の有名大学へと進学しています。進路は多様で、ギャップイヤーの取得、ボランティア活動、起業に取り組む卒業生も多くいます。

主な進学先 2025.5月現在

北　米

Babson College
Bates College
Boston University
Brown University
Carnegie Mellon University
Case Western Reserve University
Colby College
Columbia University
Cornell University
Macalester College
McGill University
Middlebury College
Minerva Schools at KGI
Mount Holyoke College
New York University
Northeastern University
Northwestern University
Pomona College
Princeton University
Rhode Island School of Design
Sarah Lawrence College
Savannah College of Art and Design
Smith College
Swarthmore College
Tufts University
Trinity College
University of British Columbia
University of Chicago
University of California - Berkeley
University of California - Los Angeles
University of Florida
University of Pennsylvania
University of Southern California
University of Toronto
University of Washington
Vanderbilt University
Wellesley College
Whitman College
Williams College
Yale University

ヨーロッパ

Delft University of Technology
Erasmus University College
IE University
King's College London
Leiden University
Royal Northern College of Music
SOAS University of London
University College London
University of Amsterdam
University of Bath
University of Bristol
University of Edinburgh
University of Groningen
University of Manchester
University of Mannheim
University of St. Andrews
University of The Arts London

アジア・オセアニア

Australian National University
(オーストラリア)
Chulalongkorn University
(タイ)
Mahidol University
(タイ)
National University of Singapore
(シンガポール)
NYU Abu Dhabi
(アラブ首長国連邦)
RMIT University Viernam
(ベトナム)
University of Sydney
(オーストラリア)
Trinity College
(オーストラリア)
Yale NUS
(シンガポール)

日　本

立命館アジア太平洋大学(APU)
秋田国際教養大学
国際基督教大学(ICU)
慶應義塾大学
九州大学
大阪大学
立教大学
上智大学
芝浦工業大学
武蔵野芸術大学
立命館大学
東京大学
早稲田大学

度重なる自然災害や異常気象、国際的な緊張が続く一方で、テクノロジーはかつてないスピードで進化し、社会や産業のあり方が大きく変わろうとしています。このような時代だからこそ、変化をしなやかに受け止め、立場や意見の違いを強みとしながら、社会課題に挑み続ける若い世代のリーダーの育成が、これまで以上に求められています。

多様な価値観が交わる学び舎で、生徒一人ひとりが自らの情熱と可能性を見出し、リーダーシップの本質を深めていく。生徒たちはもちろん、学校としての挑戦も支えてくださっているのは、他でもない皆さまのご支援です。長年にわたるご信頼と温かいご支援に、改めて心より感謝申し上げます。これからも未来を形づくる生徒たちに学びの機会を提供できますよう、ふるさと納税をはじめとするご支援を賜れますと幸いです。

UWC ISAK JAPAN



芳名帳のご案内

全ご支援者の方々の芳名帳は、
ウェブサイトに掲載
させていただいております。
こちらからご覧ください。

ご支援の方法はこちら